

「価格ニューメレールと国際不等労働量交換——リカード・マルクス型貿易理論より」

2018 年度国際経済学会第 8 回春季大会

立命館大学 板木雅彦

報告要旨

2017 年秋の全国大会共通論題で提起した新しい貿易モデル（リカード・マルクス型貿易モデル）を受けて、本稿の課題は、経済を計測する基本単位を確定することである。経済をひとつの再生産体系であるにとらえると、価値の観点からする計測単位は労働であり、価格の観点からする計測単位は労働力である。より正確には、「1 生産期間中に生産過程で使用された労働力 1 単位を回復するために消費過程で消費される、生物学的かつ社会的に必要な最小限の消費財・サービスのバスケット」の価格が、計測単位としての価格ニューメレールとなる。こうして、消費財・サービスの生産性や価格の変化、バスケットの量や構成比の変化、国民経済間のバスケットの量的・質的・構成上の相違にかかわらず、いわば時間と空間と生産様式を超えた「不変の価値尺度」として価格ニューメレール概念を再構築することができる。これをもとに、国民ニューメレール、実質賃金率、実質外国為替相場概念が確定される。そして、修正フォン・ノイマン型価格体系に外国貿易を導入し、主導的 3 貿易部門を前提することで、国際・国内価格体系、国内分配関係、実質外国為替相場が確定される。

さらに、以上の成果を国際不等労働量交換論に応用することで、「中間財貿易を通じて A 国と B 国の労働が互いに交錯しているとき、両国間の不等労働量交換をいかに計測するか」という理論課題に対して、「国際不等労働量交換とは、A 国の労働と B 国の労働の間のそれではなく、世界の総労働のうち A 国の生産物に体化された労働量と B 国の生産物に体化された労働量との不等交換である」という新しい国際不等労働量交換概念を確定する。

<参考文献>

「リカード・マルクス型貿易理論を目指して (1) : 国内経済の構造」, *Working Paper Series*, IR2017-1, 立命館大学国際関係学部、2017 年 9 月

(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ir/college/bulletin/workingpaper/IR2017-1..pdf>)

「リカード・マルクス型貿易理論を目指して (2) : 比較優位・劣位と分配」, *Working Paper Series*, IR2017-2, 立命館大学国際関係学部、2017 年 8 月

(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ir/college/bulletin/workingpaper/IR2017-2..pdf>)

「リカード・マルクス型貿易理論を目指して (3) : 外国為替相場、部分特化、完全特化」, *Working Paper Series*, IR2017-3, 立命館大学国際関係学部、2017 年 8 月

(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ir/college/bulletin/workingpaper/IR2017-3..pdf>)

「リカード・マルクス型貿易理論を目指して : 比較優位・劣位と分配」 日本国際経済学会『国際経済』、2018 年 forthcoming